

チャ赤焼病への薬剤の防除効果と防除適期

[研究のねらい]

・チャ赤焼病(図1)の防除技術については、いまだ不明な点が多く、生産現場では対応に苦慮している。このため、赤焼病に対する各薬剤の防除効果と防除適期及び台風前後の薬剤散布効果について調査を行った。なお本研究は、農研機構生研支援センター「革新的技術開発・緊急展開事業(うち先導プロジェクト)」において実施した。

[研究の成果]

- ・赤焼病に対する各薬剤の防除効果は、薬剤間で大差はなく、いずれも効果がみられた(表1)。
- ・防除適期については、いずれの薬剤も前年秋の11~12月に散布した場合、一定の防除効果がみられた(表1)。年明け後の散布では、2月又は3月散布で比較的高い効果がみられた(表1)。
- ・台風通過前又は後の薬剤散布により、秋期(11月)の発病が減少した(図2)。このことから、台風等の強風雨の前又は後の薬剤散布が赤焼病の防除に有効であることが実証された。

表1. 各薬剤の散布時期別の赤焼病防除効果

薬剤散布日	コサイド3000		クプロシールド		カスミンポルドー		スターナ水和剤		無処理
	発病葉数	防除価	発病葉数	防除価	発病葉数	防除価	発病葉数	防除価	発病葉数
11月1日	19.3	68.7	22.3	63.8	36.0	41.7	21.3	65.4	61.7
12月7日	22.7	63.3	33.3	46.0	26.0	57.9	16.3	73.5	61.7
1月10日	27.7	55.1	18.3	70.3	27.7	55.1	35.0	43.3	61.7
2月8日	29.7	51.9	21.3	65.4	20.3	67.0	18.3	70.3	61.7
3月7日	25.3	58.9	14.7	76.2	29.7	51.9	30.3	50.8	61.7

- 1) 「やぶきた」幼木園において調査した。
- 2) 薬剤散布後、一番茶前(4月9日)に発病葉数を調査した。
- 3) 防除価とは、無処理区の発病を100とした場合の処理区の防除効果を示す指数であり、防除価が高いほど防除効果が高い。
- 4) 薬剤濃度は各1000倍、散布量は400L/10a。
- 5) 発病葉数は1㎡あたりの枚数。

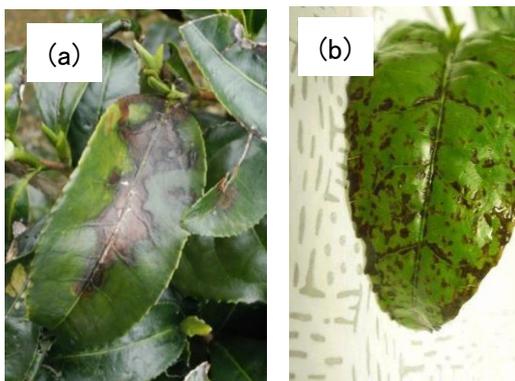


図1. 赤焼病の(a)典型的な病徴と
(b)台風襲来後の病徴

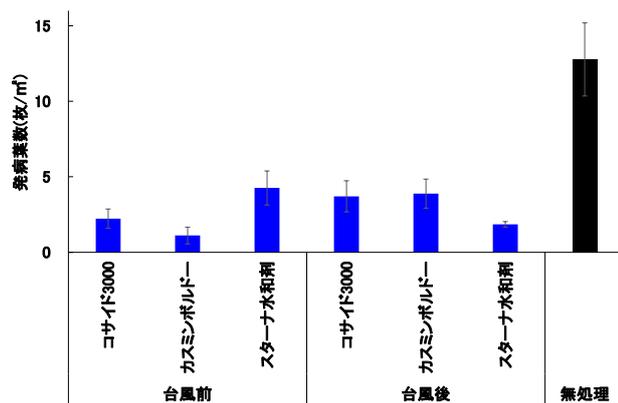


図2. 台風通過前又は通過後の薬剤散布による赤焼病防除効果

- 1) 「おくひかり」成木園において調査した。
- 2) 9月8日と10月12日に上陸した台風の通過前(9月6日、10月10日)又は通過後(9月10日、10月16日)に薬剤を散布し、11月11日に発病葉数を調査した。
- 3) 薬剤濃度は各1000倍、散布量は400L/10a。